

# 有題 無題

## 超高齢社会 克服のモデル提唱

2050年にすべての国民が天寿を全うするまで、健康であり続けられる世界最初の国になるという国家目標を実現するための「制度イノベーション」について説明しよう。

ここで重要なのは、100年後に日本は世界の中でどのような存在であるべきか、そのための理念は何か、日本人にとってどのようなインフラが必要かを考えることだ。長期的視点をもち、1年単位ではなく、100年単位のバランスシートをつくることが重要である。日本は超高齢化社会を乗り越えるモデルを作り上げ、世界へ発信すべきだ。不可欠なのが「制度イノベーション」である。

14年11月にわが国は薬

### 内閣府参与 原丈人

## 世界から「必要とされる国」へ

事法を改正し、再生医療において条件付・期限付早期承認という世界初の画期的な制度を創設した。従来、米国の制度に追隨していた日本が、世界に先駆けた制度を作ったことに衝撃が走った。中身は13年11月に私が主宰する「ワールド・アラ イアンス・フォーラムi nサンフランシスコ」で議論し、改革を提唱した内容が生かされたものになっている。

私は、これに続く新たな制度改革に着手したいと考えている。それは、世界中で約6500種類あるとも言われている難病を治療できるのは、「日本だけ」という世界的評価をつくることである。患者数が比較的多い22種類の難病の国内罹患者は約62万人。北米は約270万人、欧州は約360万人の患者がいると推測される。

スタが高く、長期にわたる研究開発と治験を継続できない海外の創業ベンチャーなどは日本に移転することになるだろう。この制度を持った日本に進出してくると予想される。臨床応用拠点だけでなく、研究開発拠点なども移転してくれば、日本の医療技術向上や新産業の育成、雇用創出、税収増加など、さまざまな効果が期待でき、持続可能な成長へとつながる将来像が見えてくるだろう。

こうした経済効果は毎年3・3兆円と試算されている(15年、三井住友銀行とアラリアンス・フォーラム財団試算)。患者の増加により、治療データの精度が増し、世界の有力医薬品メーカーでさえも、早期に承認されることにも来日し、コ



原丈人は、27歳から創業し、84年までフルタイムで勤務した。米国に渡り、2007年にアラリアンス・フォーラムを創設し、現在は同財団の代表理事を務める。

「必要とされる国」になるだろう。